

光星男子V 三沢商女子 決勝で涙

55年ぶり頂点

強豪校といわれながら、なかなか高校総体の優勝を持ち帰れなかった光星が、55年ぶりに頂点まで上り詰めた。新人戦、春大会と苦戦続けた弘前実に対し、得意の「走るバスケット」を封印し、「我慢するバスケット」で挑んで、高かった壁を打ち破った。久保田主将は「やるべきことをやった結果」と喜びをかみしめた。

試合は第1クォーター(10分)で13点差をつけられたが、「正しくノーマークでない限り、しっかりと時間を待つ」という佐々木彰彦コーチの指示を受け、2分間の攻撃時間をいっぱい使って確実に得点した。「常にリベンジに向かう気持ちで力強くプレーした」という3年の若手大工山選手は、55年の活躍もあり、第3Qまで55-52と逆転した。

第4Qは序盤から光星ペースで最大11点差まで開いたが、弘前実が猛攻を寄せ、試合は一気にハイペースな展開に。すぐさまボールを奪い、速攻を仕掛けようとする弘前実に対し、試合の流は渡さないばかりに、焦らせずス

「我慢」で挑み壁破る



「バスケットボール男決勝・弘前実-八学光星」第4クォーター、光星は久保田(中央)が決め、67-64とする。興武通商

回して得点。佐々木コーチは「チームは最後まで我慢し続けた」と勝因を語った。

試合終了後は、コーチや選手を次々に肩上げ、健闘をたたえ合った。インナーハイに向け、久保田主将は「2つでも多く勝ち上がりたいたい。壁を1戦一勝で集中して乗り越えたい」とそれぞれ力を込めた。(金澤千穂)

バスケットボール	
男子	(興武通商)
▽準優勝	三沢商 64-56 弘前実
▽準優勝	田 61-57 八学光星
▽準優勝	田 78-21-11 65 三沢商
▽準優勝	田 24-19-11 11
▽準優勝	田 14-18-18 25
▽準優勝	(栗田3年連続14回目の優勝)

青森県 高校総体

第70回青森県高校総体最終日は5日、各地で競技を実施した。バスケットボール男子は八学光星が55年ぶりに頂点に立った。フェンシング団体に制し、弓道女子団体は田子が11年ぶりの優勝。バレーボール女子は三沢商が7競技で優勝した工大一が獲得した。4年連続22度目。準優勝の敢闘杯は4競技を制した青森山田が手にした。

女子総合優勝の明順旗は6日に実施するソフトボールの結果を待って決まる。青森市マエダアリーナで5日に予定されていた総合閉会式は同日で明順旗獲得校が決まらなかったため、実施が見送られた。(取材班)